

「レモン」に融資したのか

新銀行東京の失敗とアドバースセレクション との因果関係

背景： 経過

- 2004年2月 新銀行マスタープランが東京都により発表
- 2004年3月 東京都は新銀行に1,000億円を投資すると正式に決定
- 2005年4月 新銀行は事業を開始
- 2007年11月 累積損失の940億円を公表
- 2008年3月 東京都は400億円の追加資金を注入
- 2008年6月 累積損失の1,020億円を公表

背景：不良債権の比較

Table 1. Doubtful debts for years ending 31 March

	2006	2007	2008	2009	2010
New Bank Tokyo	0.9%	6.4%	12.7%	16.8%	19.8%
Shōkō Chūkin	4.7%	4.1%	3.5%	2.4%	1.9%
Regional Bank Average	4.4%	3.9%	3.7%	3.3%	3.0%

Source: annual reports of New Bank Tokyo, Shōkō Chūkin and Chiginkyō, 2006 to 2010.

研究の目的

1. アドバース・セレクションとの因果関係
2. 日本の金利体系への影響
3. 設定された基本の目標を達成したか

中古自動車市場での AS



良質
価格はより高い

悪質（レモン）
価格はより低い



中古自動車市場での AS



良質
価格はより高い



悪質（レモン）
価格はより低い



売り手は品質を知っている
買い手は品質を知らない

非対
称性

中古自動車市場での AS



良質
価格はより高い



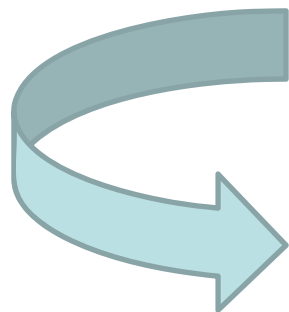
悪質（レモン）
価格はより低い



売り手は品質を知っている
買い手は品質を知らない

非対称性

買い手は平均的な価格しか払わない
売り手は良質な車を売りたいがらない



中古自動車市場での AS



良質
価格はより高い



悪質（レモン）
価格はより低い



売り手は品質を知っている
買い手は品質を知らない

非対称性

買い手は平均的な価格しか払わない
売り手は良質な車を売りたいがらない

その結果、市場に「レモン」しかない



中古自動車市場での AS

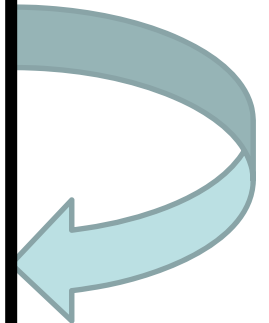
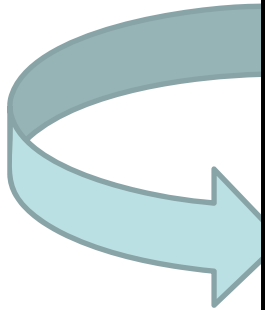


アカロフ・プロセス

の結果は

アドバース・セレクション
(逆選別)

非対
称性



理論的な枠組み：基本

- アドバースセレクション(逆選別)
 - Gresham 1558: 悪貨が良貨を駆逐
 - Akerlof 1970: 品質の悪い物が良質の物を市場から駆逐
 - Rothschild and Stiglitz 1976: 不健康な人ばかりが保険に加入

貸出での極端なAS

- 各借り手のリスクが高いか低いか、銀行は把握できない
- 借り手全員の平均的なリスクを判断
- 平均的なリスクに合う金利レートを設定
- 借り手全員にその金利レートをオファー

貸出での極端なAS

- 各借り手のリスクが高いか低いか、銀行は把握できない
- 借り手全員の平均的なリスクを判断
- 平均的なリスクに合う金利レートを設定
- 借り手全員にその金利レートをオファー

その結果

- リスクが低い借り手は、興味がない
- リスクが高い借り手は、ローンを申し込む
- 潜在的な借り手は、リスクが高い借り手ばかり

貸出での極端なAS

- 各借り手のリスクが高いか低いか、銀行は把握できない
- 借り手全員の平均的なリスクを判断
- 平均的なリスクに合う金利レートを設定
- 借り手全員にその金利レートをオファー

その結果

- リスクが低い借り手は、興味がない
- リスクが高い借り手は、ローンを申し込む
- 潜在的な借り手は、リスクが高い借り手ばかり

この状況は、アドバースセクションと言う

理論的な枠組み：貸出

- 貸出についてのアドバースセクション研究
- Stiglitz and Weiss 1981: 信用割当(クレジット・ラショニング)
 - 経済理論の均衡金利レートは適用されない
 - 金利レートが上がると、リスクの低い借り手は駆逐される

理論的な枠組み：貸出

- 貸出についてのアドバースセクション研究
- Stiglitz and Weiss 1981: 信用割当(クレジット・ラショニング)
 - 経済理論の均衡金利レートは適用されない
 - 金利レートが上がると、リスクの低い借り手は駆逐される
- Besley 1994: 金利レートの二重機能
 1. 資金需給の均衡
 2. 借り手の信用性の調整

理論的な枠組み：貸出

- 貸出についてのアドバースセレクション研究
- Stiglitz and Weiss 1981: 信用割当(クレジット・ラショニング)
 - 経済理論の均衡金利レートは適用されない
 - 金利レートが上がると、リスクの低い借り手は駆逐される
- Besley 1994: 金利レートの二重機能
 1. 資金需給の均衡
 2. 借り手の信用性の調整
- Corbett 1987: スクリーニングとシグナリング
 - アドバースセレクションの防止対策

マスタープラン：目標

- 新銀行を設立する前、東京都はマスタープランを発表した
- マスタープランによる新銀行の目標
 1. 東京経済を再生
 2. 中小企業を支える
 3. 地域型「トランザクション・バンク」を設立
 4. 金融業種の枠を超える新たな金融サービスを創造
 5. 儲ける

マスタープラン：方法

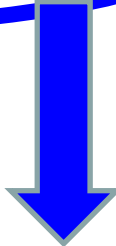
- 目標に達成するための方法
 1. ローン申請の判断を統計的なスコアリング・モデルに任せる
 2. 金利レートを統計的なスコアリング・モデルに任せる

マスタープラン：方法

- 目標に達成するための方法

1. ローン申請の判断を統計的なスコアリング・モデルに任せる

2. 金利レートを統計的なスコアリング・モデルに任せる



Corbett のスクリーニング
という防止対策を無視

マスタープラン：方法

- 目標に達成するための方法

1. ローン申請の判断を統計的なスコアリング・モデルに任せる

2. 金利レートを統計的なスコアリング・モデルに任せる

Besley の金利レートの
「二重機能」を無視
Stiglitz and Weiss の
「信用割当」を無視

Corbett のスクリーニング
という防止対策を無視

マスタープラン：方法

- 目標に達成するための方法

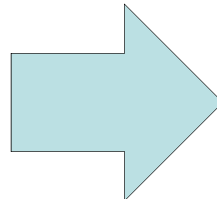
1. ローン申請の判断を統計的なスコアリング・モデルに任せる

2. 金利レートを統計的なスコアリング・モデルに任せる

Besley の金利レートの
「二重機能」を無視
Stiglitz and Weiss の
「信用割当」を無視

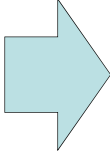
Corbett のスクリーニング
という防止対策を無視

Akerlof プロセスを発動



アドバースセレクション

金利レートの比較

金融機関	金利レート	情報源
新銀行のスコアリング融資 2005年平均	 6%	Nikkei (2006)
全銀行のスコアリング融資 2005年平均	4.5%	Ono (2005)
全銀行のスコアリング融資 2009年までの経過	3% になった	RIETI (2009)
信金	銀行より低い	Schaede (2005)
信用保証制度	1% 水準	Miwa (2010)

良い借手を駆逐

借手	新銀行への判断	情報原
中小企業(良い?)	新銀行に興味がない	東京中小企業家同友会 (2008)
中小企業 例: エピックホームズ 例: ヘキサード	新銀行に興味がない	Nikkei (2008)
融資できない企業	新銀行に興味がある	Yamada (2004) Toritani (2005)
失敗している企業	新銀行に興味がある	Hasumi & Hirata (2010) Nikkei (2007)
高いリスクの借手	新銀行に興味がある	Fuji (2008)

結論

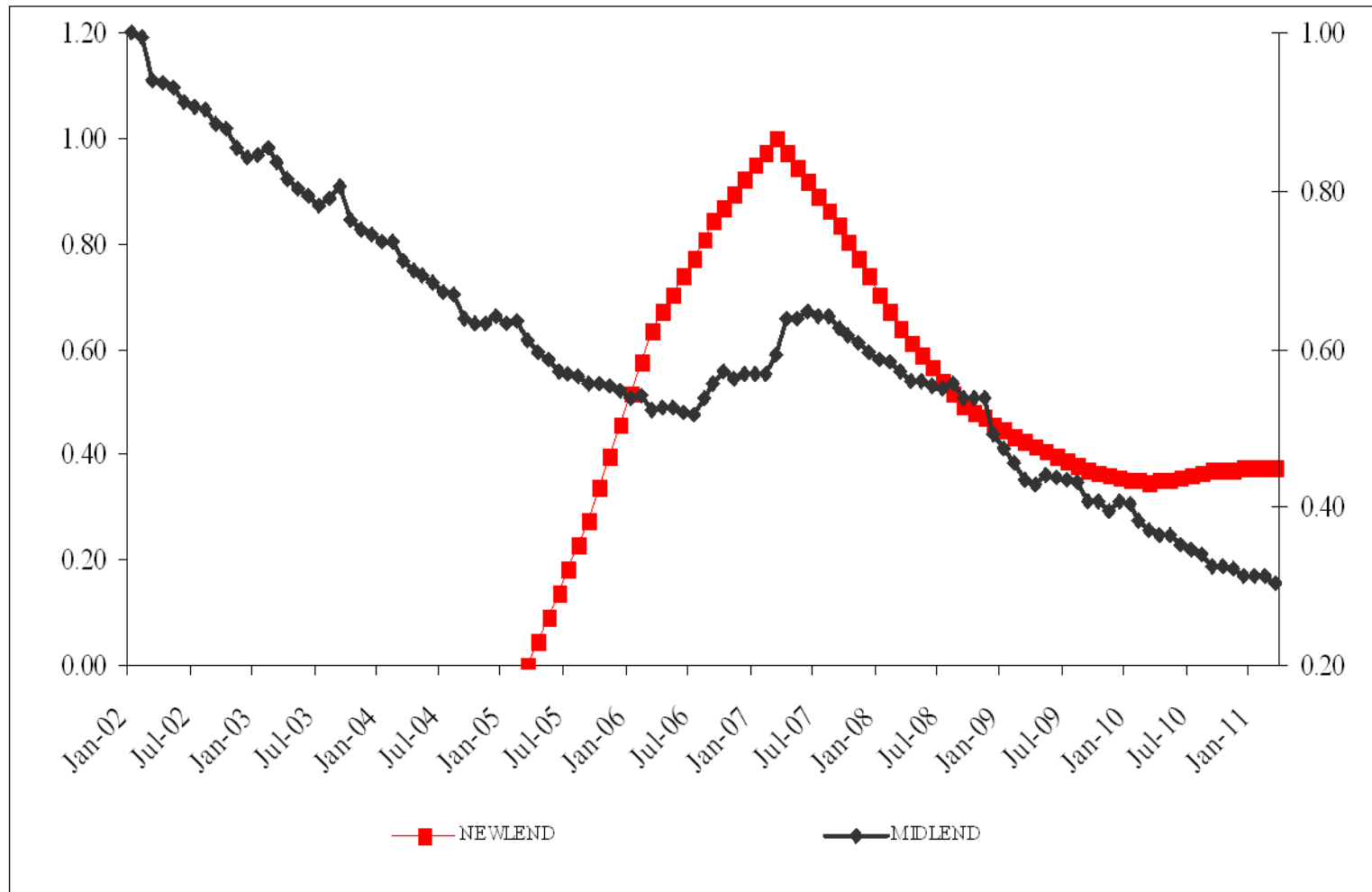
結論

- 新銀行の損失と、東京都の予算
 - 予算全額の1%
 - 病院に割り当てる予算の半分
 - 母子家庭に割り当てる予算の22倍
- 東京都から無分別な金融機関への無駄な支払い

結論

- 新銀行の損失と、東京都の予算
 - － 予算全額の1%
 - － 病院に割り当てる予算の半分
 - － 母子家庭に割り当てる予算の22倍
- 東京都から無分別な金融機関への無駄な支払い
- 私の結論
 - － 金融機関を設立する場合、アドバースセレクションの存在に注意
 - － 借り手の適正なスクリーニングの設置
 - － 借り手からのシグナルを認識できるシステムの導入
 - － 社会福祉支出を目標にする場合、効率的な方法で行う

追加の情報：新銀行の業務対 ミドルリスク



追加の情報：新銀行の業務対 生産指数

